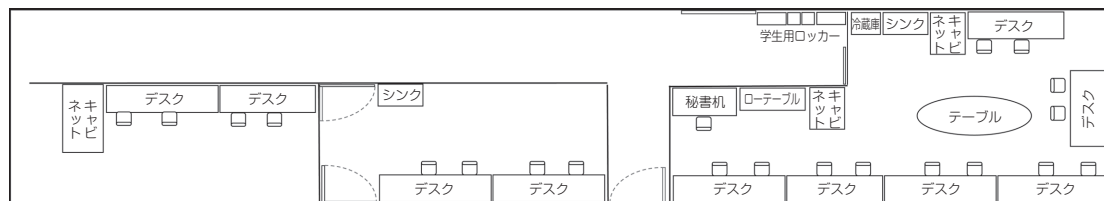


[第15回] 東邦大学佐倉病院

北村範子 東邦大学佐倉病院 放射線科



読影室



読影室レイアウト

DATA

場所：病院2階

読影端末、電子カルテシステム：10台

PACS/レポートシステム：FUJIFILM社製

電子カルテシステム：IBM社製

音声認識ソフト：AmiVoice社製

スタッフ：＜診断部＞教授1名，准教授1名，院内講師1名，助教3名，准修練医1名，レジデント3名

＜治療部＞准教授1名

独立した読影室として3部屋あり，一番広い読影室は広々としたレイアウトになっている。各端末に間仕切りはない。電子カルテと外部インターネットにつながるPCも各端末につき配置している。また，各検査室に最低1台の読影端末を配置し，主要なCT・MRIには2台の読影端末があり，レジデントやローテーターの研修医と一緒に検査の管理をしながら読影できるように配慮している。空いている端末を自由に選んで読影していたが，COVID-19の拡大により，席を固定するようにした。



読影室



CT室

移動する本棚

部屋全体の圧迫感を抑えるためと、壁をカンファレンスで使用するスクリーン代わりにできるよう、読影室では本棚はカルテワゴンを利用した可動式で、誰でも必要なときに閲覧できるようになっている。また書籍はCTやMRI室にも揃えている。読影に必要な書籍はいつでも購入してもらえる。

活発なコミュニケーション

読影室にはお金を出し合って購入したものや、差し入れのお茶やお菓子が常備されている。各自必要なときに自由に休憩を取ることができる。

放射線科医同士は非常にコミュニケーションが取りやすい環境で、読影室では教授をはじめとし、読影相談のみならず、子育て相談なども繰り広げられている。

各検査室には放射線科医がついていて、放射線技師とコミュニケーションを取りながら検査を進めている。病院全体として各科の垣根が低く、他科からのコンサルトも気軽に来てもらえるような雰囲気がある。読影室だけでなく、CTやMRI室にも質問や相談などに多くの医師が来てくれている。医師だけでなく、コメディカルとのコミュニケーションも活発に行われている。



あなたの読影室、紹介してみませんか？

各施設において、読影環境を整えるためにさまざまな工夫がなされていることと思います。「配置」「空間」「照明」など、皆さまのこだわりをぜひご紹介ください！ご応募については下記までお問い合わせください。

clinimage@medicalview.co.jp

※掲載の可否につきましては、編集部にて判断させていただきます。あらかじめご了承ください。